

対人認知における刺激語の瞬間呈示における印象評価の変化

1 6 3 2 0 5 5 北川嵩興

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

他者の内面を判断するとき、対象となる他者に関するすべての情報を知った上で判断ができるわけではない。また、判断に使われる情報およびその判断自体には、人それぞれ見方である「評価基準（コンストラクト）」が影響している。コンストラクトは、各自の人生において経験されてきた事象やその際にどのような感情を抱いたかなどの影響を受けて、個人ごとに独自に形成されるものと考えられている。さらに、コンストラクトは固定されているものではなく、常に変化し、修正されると考えられる。

対人場面で、その直前に起きた事象によって特定のコンストラクトが活性化し、その後の印象評価に影響を与えることが知られている。池上・川口(1989)や森・坂元(1997)は、刺激語の瞬間呈示が事前に行われることで、後続する対人印象評価に影響することを明らかにしている。

2. 目的

本研究では、森・坂元(1997)により行われた実験の追試を行う。そこで、他者に対する印象評価において、評価前の瞬間呈示による意識下処理が、後続する印象に影響を与えるか確認を行う。

3. 実験 瞬間呈示における印象評定課題への影響

3.1 方法

実験参加者：本学情報科学部情報ネットワーク学科4年生 20名（男性20名）が参加した。

実験計画：2要因3×3水準混合計画で実験を実施する。1つめの要因は「プライム（先行刺激）の種類」で、各参加者には、「友好語」「敵意語」「ニュートラル語」の3種類の1つの種類のプライムが呈示される。2つめの要因は「人物の行動記述文の種類」で、各参加者には「ポジティブな文章」「ネガティブな文章」「ニュートラルな文章」の3種類すべての行動記述文が呈示される。

材料・刺激：ターゲット人物がそれぞれの性格特性にどの程度あてはまるかを7段階で評定させた。形容詞対の半数は、敵意性-友好性に関連があるもの（冷たい-あたたかい、わがままな-思いやりのある、残酷な-情け深い、意地悪な-おひとよしな、きびしい-やさしい、好戦的な-平和を好む）であり、残りの半数は関連のないもの（無責任な-責任感のある、頭の悪い-頭の良い、うぬぼれた-謙虚な、気の小さい-気の大きい、下品な-上品な、退屈な-おもしろい）であった。

手続き：実験手続きは、「プライミング課題」「印象評定課題」「再認課題」の3つの課題を順に行った。これらの実験はすべて個別で実施された。

1. プライミング課題 モニタの画面で50ms呈示された単語に対して、その位置を判断する課題を行った。説明の後、練習試行を4回行い、本試行を12試行ずつ5ブロック、計60試行を行った。参加者に割り当てた条件に基づき「友好語」「敵意語」「ニュートラル語」のいずれかの単語セットが利用された。

2. 印象評定課題 人の仮想人物の行動記述文を読み、その人物に対する印象をそれぞれ評定するよう求めた。3人分の行動記述文は、プライミング課題がない状況で、それぞれ「やや敵意的」「やや友好的」「ニュートラル」な印象をもつことが予備調査より明らかにされている。なお、3人分の課題の呈示順は、参加者ごとにランダムに入れ替えられた。印象評定では12対の形容詞対を1つずつ呈示し、人物に対して印象を評定するよう参加者に求めた。

3. 再認課題 プライミング課題で呈示された12語にディストラクタ12語を加えた刺激リストを示し、それぞれ呈示されていたかどうかを判断させた。

3.2 結果

12語の形容詞対の評価において、プライムの効果が見られたのは「無責任な-責任感のある」の評価のみであった。表1に、形容詞対「無責任な-責任感のある」の評価の結果を示す。

表1 「無責任な(1)-責任感のある(7)」の評価

	ネガティブ	ニュートラル	ポジティブ
敵意語	5.00 (1.20)	2.88 (1.13)	2.38 (0.74)
ニュートラル	4.33 (1.03)	3.00 (1.26)	1.33 (0.52)
友好語	4.33 (1.37)	2.83 (1.47)	2.33 (1.21)
全体	4.60 (1.19)	2.90 (1.21)	2.05 (0.94)

() 内は標準偏差

2要因分散分析の結果、プライムの種類の要因と行動記述文の種類の要因では交互作用は確認されなかった ($F(4, 34)=1.29$, $p=.29$, 偏 $\eta^2=.13$)。これに対して、プライムの種類の要因には主効果が確認された ($F(2, 17)=3.98$, $p=.04$, 偏 $\eta^2=.32$)。しかし、多重比較の結果、3つの水準間でいずれにも有意な差はみられなかった。

4. まとめ

今回の結果から、「無責任な-責任感のある」の評価はプライミング課題から限定的に影響を受けたことが確認されたが、プライムの種類が与えた影響の詳細は明らかにならなかった。また、他11対の形容詞に対する影響は確認されなかった。先行研究との実験環境の相違として、プライミング課題における「注視点からの刺激語の距離」や「モニタの大きさ」などが影響していたのではないかと考えられる。

参考文献

池上 知子・川口 潤 (1989). 敵意語・友好語の意識的・無意識的処理が他者のパーソナリティ評価に及ぼす効果 心理学研究, 60(1), 38-44.

森 津太子・坂元 章 (1997). 特性関連語の関与・関与呈示が対人知覚に及ぼす効果 心理学研究, 68(5), 371-378.